

# 千代田まちづくり サポート

# 通信

2006年9月発行

NO.15

編集・発行 (財) まちみらい千代田企画総務チーム

財団ホームページ <http://www.mm-chiyoda.or.jp>

東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア 4階  
〒101-0054 TEL.03-3233-7556 FAX.03-3223-7557

E-mail [info@mm-chiyoda.or.jp](mailto:info@mm-chiyoda.or.jp)

## 「トライアル部門」が新設され、ますますパワーアップ 第8回公開審査会 17団体への助成が決定！



8年目を迎えた千代田まちづくりサポートの公開審査会が、平成18年6月17日（土）にちよだプラットフォームスクウェアにて開催された。今回から従来の助成に加えて、活動初動期のグループを対象とした「トライアル部門」が新設され、1年目応募グループへの審査基準が明確化された。その結果、今年度の応募グループは17グループ（内3グループはトライアル部門）となった。

昨年度に審査員を退任された山崎氏、田畑氏に代わり、服部氏と田熊氏が加わり、新しい新鮮な視点での審査を行っていただいた。

今回の応募グループは、1年目が5グループ、2年目が9グループ、3年目が2グループとなった。昨年度は学生が中心となるグループが多かったが、今年度は、地域の人々を中心としたグループによる特色のある活動が多かったことが特徴となっている。

昨年度に比べ応募数が減少したことから、会場も落ち着いた雰囲気となり、応募グループも余裕をもってプレゼンテーションを行うことができた。ただし、審査員からはいつもの厳しい質問もあり、応募グループにとっては緊張感を緩めることはできなかったようだ。

トライアル部門では、審査員の挙手による審査を初めて採用。次々と挙がる手に歓声があがった。一般部門では、1次審査、2次審査と審査が進むにつれて、助成ラインぎりぎりでの攻防が繰り広げられ、審査員と応募グループの間で活発な発言が相次いだ。

最終的な審査の結果、応募された全17グループ全てが助成対象となり、内2グループが満額助成となった。助成総額は当初予定を上回る408万円となり、各グループのまちづくり活動に対する期待の大きさを物語っているように思える。

公開審査会は単に審査だけを行う場ではない。千代田のまちづくりを担う志を持った人々が集う場である。この場から、新しい出会いや活動のアイデアが生まれていく。そして、そのネットワークが、より豊かなまちづくりを実現していく原動力となるのである。

【審査委員＝敬称略】

会長 饗庭 伸

(首都大学東京・都市環境学部建築都市コース研究員)

副会長 鈴木伸治

(横浜市立大学国際総合学部・準教授)

委員 山本 坦

(NPO 法人東京セントラルパーク理事)

金城敦彦

(NPO 法人大丸有エリアマネジメント協会事務局長)

田熊清徳

(神田芸芸祭実行委員長)

服部素子

(社団法人日本フィランソロビー協会)

藤江賢治

(千代田区政策経営部長)

## 目次 (発表順)

### 【一般部門】

- 文化発掘隊 2
- 人が楽しむ道づくり 2
- 魁！神田塾 3
- 都心の水辺探訪クラブ 3
- CAPPs 3
- 区有地活用を考える区民の会 4
- 武蔵野美術大学  
コミュニケーションデザイン 4
- 千代田文化会 (旧千代田乃会文化部) 4
- カンダユメラボ 5
- でんでんむし 5
- フレンドシップ千代田 5
- 内神田家守研究会 6
- 神保町応援隊 6
- i-Residence構想研究会 6

### 【トライアル部門】

- NPO法人日本の風  
番町価値創造倶楽部 7
- サーキュレイト千代田 7
- まちづくりワン 7

### 【千代田まちづくりサポートについて】 8

### 【総評・審査員講評】 9

### 【お知らせ・賛助会員一覧】 12

## 1 千代田発 こどもまちの記者／発信・発展・再発見 文化発掘隊 【3回目】

私たちの活動は今年は3年目に入り集大成することになる。こどもたちが千代田区のいろんな所に行って取材し、自分たちの目で捉え、自分たちの言葉で発信する。去年は、区の大切なものや不思議なものを「世間遺産」としてこどもの目で捉えて後世に伝えるということをテーマにした。

今年はそれに加えて、取材とは何だろう？と考え、「まち」って何だろう？ということに行き着いた。結局、人がまちを創っているの、もう少し「人」を意識して活動しようということになり、その人がどんな場所でどんなことをやって生きているのか、ということ併せて取材していくことになった。

たとえば自分の父親はどんな気持ちで働いているのか、近所の人や職人さんは何をしているのかなど、こどもの目線で捉えていく。それを発信するのに、新聞だけでなくビデオ映像も活用して、今年は3年間の活動のようすをまとめたCDも創りたい。活動のPRもしなくてはと考えているが、他の団体、企業や学校との連

携も図りたいのでご紹介をよろしく。

Q) この先、4年目、5年目の活動はどうするのか？

A) テーマとして、活動全体としては続けていくことを当然考えている。いろんな団体の情報発信のなかに組み込んでもらえればいいとも思っている。大手町キッズ・フェスティバルなど区外からの参加要請もあり、実現しているので区内外併せてやっていく形もあり得る。

Q) すばらしい活動なので、もう少し、各学校が協力してこどもの記者を出してほしいと思った。千代田区発が東京発、日本発になるよう、今後の発展を期待する。

A) 教育委員会や学校にもお願いしている。この1年間でもっと理解が得られるようにPRも含め、活動するつもりだ。



## 2 放射27号線の道づくり研究 人が愉しむ道づくり 【3回目】

番町地区は庭も多く、緑豊かな所だったが、大規模開発などによる環境の悪化などで緑が消失した。マンションの増加は隣人の顔が見えないためにコミュニティが分断され、犯罪や災害時の不安も生まれる。住民へのアンケートでは「道を歩きにくい、歩くのが怖い」、という声が多かった。そこで、道、公園、広場を結合して、「人が愉しむ道づくり」をしようと決めた。

まず、緑のなかの散歩ができるように、森のなかを人が歩いたり、自転車が通ったりするような道を造りたい。道のポケットパークには、人が休み、団欒できる場所を設ける。道が楽しければマンションからも人が出てきて、出会いも生まれ、コミュニティが再生されると思う。

調査によると既存の樹木があるので、緑のランドマークにして保存したい。将来的には都市計画マスタープランによる番町の将来像を実現することを目標とする。勤労者への広場に関するアンケートでは、イトーヨーカドーの前をこのまちに相応しいレストランにできないかという意見が多く出されたので、企業の方へ報告した。早速に検

討するということだ。去年は公園の改修工事があり、計画内容を提案した。保存を中心に、今年はまちに美しい景観を提供できるような活動をしていく。

Q) 立体模型はどんな所で発表しているのか？

A) 番町地区計画会合や企業への提案の時、持参して説明する。

Q) 模型でどここの空間をどう使うかという提案をしてはどうか。

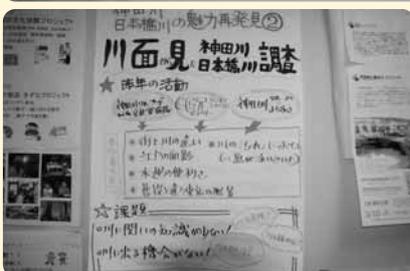
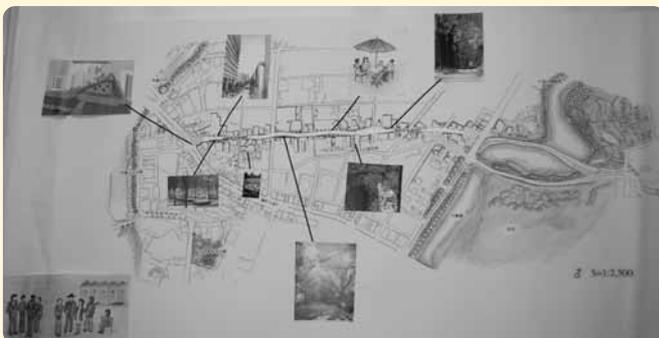
A) 道を少し蛇行させるという提案をしている。生まれた空間をポケットパークに。大規模開発では皇居の森などを借景としていた。自分たちで造った緑で貸景にできないかという提案も。

Q) マンションなどの管理組合との交流は？

A) 管理組合とは交流できた所もあるがむずかしく、全部ではない。

Q) この活動は行政とのタイアップがないと無理だと思うが？

A) 区の方と相談しながら指導も受け、実際に公開空地については木を植え、ベンチを置くなどしている。



▲真剣な顔で審査



第8回千代田まちづくりサポート 公開審査会

### 3 親子一貫神田っ子育成企画第2弾 魁！神田塾 【2回目】

神田公園地区連合町会の「神田っ子養成講座」というイベントをきっかけに神田地域の親子が集まって結成したグループ。「学校間の垣根、世代間の垣根、新旧住民の垣根を超えた交流」を目的に活動している。①神田の文化体験プロジェクトはまちの歴史散策、本屋街神保町の探検、江戸っ子の職を学ぶ、大学の探検などを行った。②地域コミュニティ形成プロジェクトは3世代合流のイベント、神田明神と氏子の関係を学ぶ、江戸っ子の体験塾、子育て相談会、インターネット相談など。

③親子で創造きずなプロジェクトでは、昨年度優勝した「雪だるまフェア」に今年も参加したい。各イベントで親子交換日記や手紙を書くなどする。④まちの担い手育成プロジェクトとしては各プロジェクトの企画運営、まちづくり研究会、子育て新聞、神田っ子新聞の作成などを行う。

参加者が300人を超えたが1回きりの参加が多かったので、今年は参加を登録制にしたい。親子で、子どもとまち「ヒト、コト、モノ」

の関わりづくりを年間を通して継続的に行い、神田っ子の認定証を発行。神田に愛着を持ち、共に生きる意識を育み、地域の活性化を図る。「神田はおもしろい、ずっと住みたい」と思ってもらえるように活動していきたい。

- Q) お父さんの参加が少ない点は今年は解決できそうか？  
A) 登録制にしたので積極的に声をかけることができる。  
Q) 他のグループとの連携は可能か？  
A) ぜひやりたいので、みなさんご協力下さい。  
Q) 今の時代、地域力の不足を補うような神田っ子とは何か？  
A) 神田で育ち、世界に羽ばたける神田っ子を育てたい。  
Q) イベントの参加は他の区からの子どももOKか？川を逆上る鮭のような子どもは受入れて、神田を中心に発展してほしい。  
A) 広めるためインターネットのHPもオープンする予定だ。



### 4 神田川・日本橋川の魅力再発見② 川面から見た神田川・日本橋川調査都心の水辺探訪クラブ 【2回目】

昨年の活動の課題として、川に関する知識が少ない、川に出かける機会が足りない、と言われた。都市の発展に伴い、川は臭いとか汚いとか危険な場所だと思われるようになったが、一時期よりは環境改善の結果、神田川・日本橋川にも魚や鳥が生息できるようになったことが、あまり知られていない。

もっと川の魅力を知ってもらい、新たな河川文化の創造を目指す活動。1年目は川と地域の関わりをテーマに陸上からの探索と乗船会を実施し、防災船着場周辺のマップを創った。現状ではその船着場が一般には使えない。浅草橋の船宿屋の協力を得て乗り降りしている。

今年はさらに川の現状を徹底的に調べ、課題を整理して、神田川・日本橋川の観光、交通、防災の可能性を探り出したい。具体的には川の様子を写真や音声で記録する。CDなどにもまとめ、閲覧できるようにする。

Q) 今年はどんなふうに活動を充実させるのか？

- A) 昨年のマップの活用には防災船着場の使用許可が必要で、2、3年後には、その栈橋を使わせていただくのが目標。  
Q) その許可をクリアするための具体策はあるのか？  
A) 区へ許可をお願いする手紙を書いたが、返事がなかった。それで川の先入観をなくすためにも、川を体験して、五感で味わうために手漕ぎボートでクルージングする。その楽しさを知った人を増やすことで、川への興味を呼び戻したい。  
Q) 川辺でバーベキューなどをして楽しむことも考えてはどうか？舟だけでは人数も限られるのではないか。  
A) 今後の活動としては考えていきたいが、とにかくまず、川に親しむ人たちとの交流、昔から川を知っている人たちと連携することで、地元の人たちとの交流も図りたい。



### 5 千代田区公園アダプト制度を区民の立場からサポートし、広めることを目的とする CAPPS 【2回目】

区のアダプト制度が適用されて美化されている公園はまだ少ない。道と公園を花と緑で満たすことに向かったの、昨年の成果発表会以降の活動について発表する。

3月に公開講座パネルディスカッション「日本橋川と常磐橋公園」を開く。常磐橋公園は千代田区と中央区の接点にある。両区のコラボレーションとする意味で日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会と共催する。講師に日本大学理工学部教授の伊東孝氏、パネラーに月刊「日本橋」発行人の上林武人氏、中央区観光協会委員の工藤哲夫氏などにご協力いただいた。

今年は両区の協働で常磐橋公園公開清掃を行う。その延長で同公園と常磐橋の保存を目的にイベント開催も企画している。

さくらサポーター通信と協働し、「カンダユメラボ」のスタッフの協力で作成した「ちよだ花の道」マップは好評で、千代田さくら祭り2006公式ガイドMAP「さくらぼーたる」にも採用される。今年の3月～4月にはこのマップに基づいて桜の開花

- 調査を行った。  
また5月には「伊東孝先生と歩くりバーサイドウォーク」、清水谷公園の「みんなで花を植えよう」のイベントを各40名ほどの参加者で実施。10月には美化と保存の常磐橋公園パークエイドイベントを開催する。12月に「CHIYODA Park Guide」と千代田パークドクターの作成を計画している。区内の公園の現況調査をし、HP上で公開する予定。  
Q) 千代田区の資産をうまく活かし、周辺の中央区と共に区の行政にも入り込んでいる活動に期待する。  
Q) 着実な活動には脱帽する。お願いとして、川や公園のマップだけでなく、区長が植樹した一本桜にも注目し、新たな桜のマップに加え、川の道マップなども創ってほしい。



## 6 千代田区の区有財産（主に廃校跡地）の活用を考える 区有地活用を考える区民の会 【2回目】

昨年はパンフレットを作り、6か所の区有地の意識調査に基づき具体的な活用方法を提示。周辺住民対象に歴史や環境などについて2回のシンポジウムを開いた。3月のワークショップでは夢の集約として区有地活用の方向を議論する。

それによって今年は環境の変化に即した新たな「公共サービス」、そのための施設（NPOセンター、アートセンターなど）の具体的な構想について議論したい。

報告会やイベントでは、住民有志対象に会合を持ち、既存のグループへの情報提供と、同時に住民のニーズを吸い上げる。神田に住み続けるためのまちづくりと実践について講師を招いて勉強もした。1年間の活動のまとめも作成する。具体的提案づくりをし、形にして発表したい。

Q) 1年目のシンポジウムの参加者数はどれくらいか？

A) 1回目は30名、2回目は50名。6か所に分けて、個人の夢をカードに集約した。

Q) くり返しやることや、住民を巻き込むことも大事では。さらに参加者を増やしていけるか？9、10月のプレゼンは？

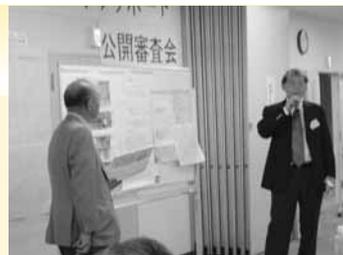
A) ワークショップの参加者数についてはまだ未整理だが、報告書を作り、具体的なイメージを提案していく。

Q) 他区の廃校の活用の見学から得たものはあるか？

A) これから見学し、専門家の意見を聞き、具体案を作る。

Q) 区内の場所を選んで検討しているが他からの参加をうながす工夫はしているか？

A) 6か所は1000坪単位の広い空き地を選んだ。各地のキーパーソンがワークショップに参加して広めている。



## 7 神田におけるコミュニケーションデザイン 武蔵野美術大学コミュニケーションデザイン 【2回目】

昨年は神田すずらん通りの色の特徴をクレヨンに表現して制作した。それを配ったり、神保町ブックフェスティバルにおいてクレヨンを使ったワークショップやクリーンアップ・デイを開催した。

今年は神保町の特徴を考えて、やはり本の町ということで、ブックカバーを制作することにした。本に関係するものがいけば神保町らしいのではないかと思った。神保町で本を買った人たちが私たちの作ったカバーをその本に付けて、電車に乗ったり、町を歩いたりしながら、本の町の魅力を再発見して、広めていきたい。

神保町ブックフェスティバルにおいて、ブックカバーを無料配布し、まちの方々と新しいコミュニケーションを図ってこうと考えている。そして、まちづくりにつなげていこうと思う。

Q) ブックカバーは古書店のだけか？クレヨン作りのメンバーは？

A) クレヨン作りは先輩たちがやった。それを継いで後輩の私たちがブックカバーをやろうと考えた。古書店以外の書店にもこれから話をしようと思う。

Q) 先輩の開いた道を無駄にせず、人脈などを活かしてほしい。

Q) ブックカバーも色をテーマにしてはどうでしょうか？また、神保町に来た人たちといっしょに作ってはどうか？他の団体とも協働してください。

A) これからみなさんのご意見を参考にして考えていきたい。

Q) 文庫本サイズのクレヨンがなぜ好評だったか考えて、ブックカバーとの違いを一度考えてほしい。



## 8 千代田区を高齢者の楽しい生活の場にしよう 千代田文化会（旧千代田乃会文化部） 【2回目】

区内の高齢者は全区民の20パーセントで、悲惨な戦中、戦後を生き抜いた人たちが明るく、楽しく残りの人生を生きようとしている。しかし中には、引きこもりや孤独死などもあり、必ずしも報われない。その人たちの力になり、高齢者が住みやすい所になるように活動している。

第一に、引きこもりや孤独死を防止する。そのためにも生きがいとしての趣味や習い事をするお手伝いをしていく。昨年からの傾聴ボランティアも続け、悩みなどを聞く。第二に、高齢者のネットワークを作り、例会や講習会などで地域の人たちと交流を図る。ご協力をお願いします。

また、平和運動も地域社会を通じて、新しく加えていきたい。戦争の悲惨さ、愚かさに対する思いが風化していくなかで、被爆体験者として、平和の大切さを語り継ぎたい。8月に反戦アニメ「アンジェラスの鐘」を上映する準備をしている。

Q) これまでの活動も続けるのか？会の名前が変わったのは独立したからか？

A) もちろんボランティア活動も併行して行う。元々被爆者の会なので、平和運動をしてきたが、千代田のサポートでのボランティア活動と

区別する意味で名前も別にしただけ。会員の平均年齢は75歳だが心は、50代のつもりでみんながんばってる。

Q) 60代の人たちと活動することはないのか？若い人は？

A) 平和イベントの方は、60代の人が多い。

Q) 平和運動も大切だが、まちづくりにボランティアも大事なので、併せてがんばってほしい。

A) ボランティアセンターや微笑みプラザ岩本町にも、最近は半蔵門病院にも傾聴ボランティアで週に1回ずつ行っている。待っていてくれるので休めない。中には認知症の方もいる。

Q) 申請された助成金を使う配分は？高齢者にはどのくらい？

A) 平和活動にはカンパが主体で、この助成金は使わない。



## 9 カンダのユメがコラボする カンダユメラボ 【2回目】

主に建築学科・アート系の学生が集まった団体で、神田に対する僕らの夢を地域の人に伝えたい。その夢を共に考え、語り合っ、空間として作り、伝えることを目的とする。

昨年は、区内の公開空地で看板建築看板を造った作品展・くうちプロジェクト（あしゆカフェやばってんスクール）、今年は3月に夢祭06などのイベント。これは廃校になっている今川中学校で建築作品についてのプレゼンをした。それだけでは地域の人に伝えることにならないので、神田の子どもたちとダンボールや牛乳パックなどの廃材で家を作った。

次に神田の職人さんを招いて、話を聞いた。本当は体験授業にしたかったが今回はそこまでできなかった。

2005年度の反省としては、イベントなどが内部で終わって、地域と繋がりが持てなかったこと。町の人たちがお客さんで終わっていた。今年は企画段階から加わってもらい一緒にイベントをやる。これがコラボするという。それが今年度の目標です。

5月にこれまでの活動をまとめた小冊子を自費出版した。8月に

は神田東地区町会といっしょに新地域活性化事業をする予定。9月には防災体験。10月にはCAPPSさんとコラボする。

そして、2007年3月には僕たちが主催して、夢祭07を開催する。そこでいろいろな団体とコラボして、神田地域を対象とした建築作品展を開きたい。

Q) NHKの番組「ご近所の底力」に出演してましたね？

A) 廃校をテーマにするということで、僕らがたまたま廃校を使ったイベントをやるので、夢祭06を紹介してくれた。

Q) 今年はリーダーが変わったのか？メンバーも先輩から後輩へ引き継がれていくことが重要だ。地元に着目して活動し、コミュニケーション能力もアップして、すばらしい。

Q) 卒業制作のテーマを公募してはどうかと話したが、可能か？地元のニーズをつかみながらやっていくことが大切だ。

A) その方向で考えている。



## 10 神田に渡そう『でんでん橋』 ~電大と神田をつなぐ橋~ でんでんむし 【2回目】

昨年は初年度ということで、まず地域との交流を図り、神田で活躍している人を電機大学に招きワークショップを実施。学内でパソコン教室や子ども向けのものづくり教室などを開く。大学の学園祭に合わせて、「でんでん灯」を造り商店に飾ってもらい、地域の祭として楽しんでもらった。

また電大ギャラリーでは子どもの絵や大学生の子どもの頃の絵を展示したが、今年はそれに、情報誌で好評だった神田の写真や地域の方の絵も加えたい。交流会も、昨年度は見てもらう形が多かったが、いっしょに創ってもらいながら活動する形にしたい。回数も増やして、地域の人により大学の中へ入って来てもらうようにする。自分たちも地域のイベントなどに参加していく。

新しい活動としては、電機大学の前が少しセットバックして空いているが、そこを使って作品のコンペをやったり、ベンチなどを置いて交流の場にする。

Q) 改装・修理隊の活動は今年も行うのか？

A) 電機学科の学生が多いので、家電の修理やパソコンの使い方など出前で行う。改装の相談会も今年も行う。

Q) 情報誌とはどんなものか？

A) 昨年堀井さんのグループと創った「神田錦町」のこと。

Q) 地域に広めるためにも、連合町会も錦町から全域に関わるようにして活動してほしい。

Q) 地域券もまた発行して、灯を消さないで、でんでん灯も。

A) 今年もまたいろいろと、さらに考えてやっていく。

Q) ストリート・ワークショップもやっていくか？予算は？

A) ぜひ、工夫して続けていきたい。



## 11 地域に根ざした国際交流 フレンドシップ千代田 【2回目】

昨年は10回のイベントと14回の番町小学校でのサタデースクールを実施。外国文化の紹介授業である、その企画と準備のため、年に12回の定例会議を行った。活動の発信手段としてホームページを多言語で開いている。千代田区に在住、在勤のメンバーが区内の外国人の支援活動として、生け花、茶道教室、三味線や着付教室の他に防災体験や区外の相撲部屋訪問なども行っている。

日本の文化を外国人に、外国の文化を日本の子どもたちに、互いの文化の交流を図る活動。外国人の講師もボランティアで引き受けてくれるので、車の両輪が回ってきている。ホームページは広報とスタッフ間の連絡を兼ねるので、円滑な運営のためにITシステムの勉強会も開いている（昨年度は年3回）。

Q) イベントのうち区内のイベントはどれくらいか？他の団体の活動への参加はしないのか？

A) 区内の天下祭りや水辺の探訪クラブなどと連携を深めてやっ

ていきたい。今年は、千代田区最大の観光地、皇居を見学することを計画している。

Q) まちみらい千代田で行っている観光サポーターにぜひ参加してほしい。地域に根ざした活動にするため共に勉強を。

A) 千代田区の観光資源を勉強して、外国語での対応も可能なので参加したいと思っている。

Q) 活動の企画をする側に外国人はいないのか？日本の文化として果たして相撲、生け花、太鼓・三味線がよいのか疑問。プログラムに工夫が必要ではないか？逆に外国人が日本で発見したことも反映できるとよい。

A) 会のスタートが外国人の支援、交流なので、まず文化の交流を計画した。今後はさらに考えていきたい。



## 12 地域不動産関係者の連携によるエリアマネジメントの促進 内神田家守研究会 【1回目】

私たちは「家守（やもり）」という仕組みを考えた。3年前に千代田区の深刻化している地域の問題を解決するために、研究会を立ち上げた。この地の利点を活かし、よい人材やテナントを街に誘致し、集積させて新たな経済活動や文化活動を創出する。それによりエリア価値を高めていくことが大切で、実現には街をよくして維持していくエリアマネジメントの手法と、不動産の価値を最適化する不動産活用の手法が必要である。

この仕組みも徐々に住民にも浸透してきたので、自主的な地域活動として展開することにした。まず空室の問題は、ビル管理セミナーや研究会を開き、関係者の連携を図る。ビルのオーナーや不動産関連事業者などが地域と結びついて行う。

次に、エリア内の空き室、空き店舗などの情報を発信するポータルサイトの研究も必要。また、エリアの魅力を高めて人を呼び込む都市活動を神田芸祭やリージョナルアートセンターと連携して、空き店舗などの活用実験をする。さらに入ってきたよいテナントや人材が地域に根ざしていけるようにサポートすることも大切で、それがエリア

マネージメントだ。

Q) プロのビジネス活動のようで、支援する必要があるのか？

A) 私個人は不動産業をしているが、ビジネスでやるならこんな手間のかかることはしない。

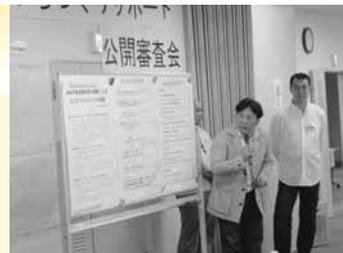
ただ、ボランティアもきちんと資金を調達することは大事。商店街の理事や町会の人間でもあり、地域の人たちと街のビジョンを考えていきたい。

Q) 儲からないのはよく分かるが地域の文化活動とどう関わるのか、いかに盛り上げ、どう街のイメージを変えていくのか？

A) アート活動や神田芸祭など地域のイベントなどに関わる一方で、物件ツアーやビジネス講座を開催していく。

Q) 家守としての活動の具体的な感触は？地域の要望は？

A) 根回しに3年かかったのは時期が大事で、地域の町会や商店街の人たちと議論するなかで仲間ができた。地元の人たちの考えを知り、これから実際に活動が始まる。



## 13 「神保町大好き人間」を神田神保町に結集し、 魅力ある元気な街に 神保町応援隊 【1回目】

神保町は明治以後、古本屋街、学生街として栄えたが、老舗も閉店に追い込まれ、寂しい街になった。それをなんとかしたいと4月に立ち上がった。最初に応援したのは桜祭で、百万人の人出があるというので、その1パーセントでも神保町に流れないかと活動した。まず「おさんぼ神保町」第1号を発行。

5月には「神田すずらんまつり」、秋の「古本まつり」に人を集めて盛り上げたい。8月には、第1回「まちづくりセミナー」を開催する。9月に「おさんぼ神保町」第2号を発行し、記事広告ものせる。11月にはブックフェスティバルに参加する。来年2月に「まちづくりセミナー」第2回を予定している。

カルチャータンのように、学生街も復活再生させたい。人集めのお手伝いをしたいので、会員を集めたい。会費は500円、ぜひよろしく。全国に神保町の情報をPRしていく。

Q) 全体予算のなかで申請金額が少ないが大丈夫か？

A) 自立したいので、会費が500円でも会員が増えればよい。

Q) 1コイン500円の会費はどうやって集めるのか？

A) 神保町交差点近くの事務所やイベントの折に集める。いわばクラブのようなもの、若い他の団体をフォローして、特に武蔵野美大の学生さんの活動は共通点もあるので。

Q) 会員の個人情報の管理は大丈夫か？

A) ホームページを管理している者がエクセル・データで管理している。表に出すのは、氏名、神保町や会への思い、参加回数を示す★印のみ。はがき類は別の担当者が管理している。

余談だが、「おさんぼ神保町」を見た人から、小川町を入れてはと言う意見があり、検討中だ。いっしょに活動できればいいと思っている。



## 14 地域共生型の国際学生居住をめざして i-Residence構想研究会 【1回目】

夜間人口4万人の千代田区に11万人の学生がいる。留学生や地方出身の学生も多いが、区内に居住しているのはわずか、アルバイトなども区外で行っている人が多い。果たしてそれでいいのか。彼らの居住スペースを確保する必要がある。地域に居住し、コミュニティのなかで生活すれば、第2の故郷となり地域にとってもかけがえのない人的つながりが生まれる。

4月から月に1回の研究会を開き、学生寮やまちづくりに関わっている方々に参加していただいた。学生居住の現況を情報収集し、基本理念の確認をしたなかで、「人間鯉論」ということが言われた。学生時代を過ごした人が郷里や祖国に帰っても、またいつか千代田区に戻ってくるという。たとえ1万人でも戻って千代田区に住めば、5年間で5万人が居住者となる。

夏には研究会成果をまとめ、10月からシンポジウムを開催して構想作成し、2月に発表、3月には報告書を作成する。

Q) 会員に大学の先生が多いが、大学内の活動なのか？また、構想の報告書はどこへ提出するのか？

A) いまは大学の教員が多いが、大学内の活動ではない。地域や他大学の人

たちと考えていく活動。この構想は1つの大学でやっても、地元の協力がなくてもできない。

Q) 研究の内容がサポートするシステムや実際のスペースとか施設だったりする。ハードとソフトの割合はどれくらいか？

A) まだ人間鯉論のような概念の段階。ハードを造るにはソフトをしっかりとさせることだ。地域の方と方向性を探りたい。

Q) 構想作成は活動が1年で終わらないか？今後の展望は？

A) 最終的な大きな目標は新しい都市型の人間コミュニティをいかに創るのだが、課題は、具体的には淡路町の再開発とかある。まずは、考え方のモデルをきちんと創りたい。

Q) 留学生や地方出身の学生たちを空き室に入れるのか、大きな施設を造るのか、具体的には、実際に何をやりたいのか？

A) 町会の方たちとも議論しているが、空き室も含めて考えて、1か所だけでなく町全体で考えていく。



## 15 展示会「描かれた番町・麹町～地図で見る100年の移り変わり～」の開催 特定非営利活動法人日本の風 番町価値創造倶楽部【トライアル】

日本文化を発信するNPOのなかに生まれた街歩きの会。番町の歴史、文化の学習や調査をする。それによって街の魅力を再発見、再評価する。今年は周辺の歴史資料を活用した企画展を開催。通常、当団体のあるビルの2階には、和の文化を示す書籍やツールが置いてあり、ホールの展示スペースの資料など、展示物も誰でも気軽に見ることができる。

今回の企画展の目的は番町の街の変遷を地図や絵図で見てもらうことにより、自分たちの町に興味や関心を持ってもらうこと。スタッフが解説してくれるので、周辺に在住、在勤の方との交流も図れる。展示物は、近くの学校、企業などに出前展示したいと考えている。まちづくりに関心のある人材やグループのネットワーク化も図りたい。

本日も、このような場で発表できたことも、会として大変ありがたく、うれしい限りだ。

Q) このサポートの助成金の使い道はパネル代か？

A) ギャラリーで展示するものを作る費用に当てる。

Q) このサポートのOBで神田探偵団という団体もすばらしいパネルを作っているの、ぜひ参考にしてほしい。

A) 神田探偵団も知っているし、会にも女子美術大学出身者がいる。クオリティの高いものができると思う。パネルはよそへもお貸しする。お互いに共有して有効に使いたい。

Q) そのような場所に人がどんどん出てくるような活動にぜひしてほしい。文化や歴史を通しての会に期待する。

A) そこでは抹茶なども出て、サロン風におしゃべりができる。そこに出会いがあり、交流が広がっていく。  
(審査委員の挙手の結果、万票成立、承認される。)



## 16 外国人支援による地域活性化—メニュー翻訳ボランティア— サーキュレイト千代田【トライアル】

生まれ育った千代田区でのこの活動は、法政大学の地域研究センターと学生のみなさんが関わっているので、プレゼンを学生さんをお願いする。

国としては、ビジット・ジャパンとして外国人を受け入れ、東京都としても観光の振興として外国人を増やす政策をとっている。千代田区は、宿泊拠点地区であり、就労、就学の拠点としても、観光と居住の両面から外国人が集まってきている。「外国人支援による地域活性化」をミッションに「メニュー翻訳ボランティア」を立ち上げた。

外国人の増加によるメリットとしては日本文化の理解が深まる、経済効果が高まる、日本の情報が世界に発信されることなどがある。デメリットとしては、外国人による犯罪が増える、言葉や習慣の違いからトラブルが増え、外国人を受け入れずらくなり、嫌な思いをさせてしまうことがある。

デメリットを防ぐためにも私たちができることは「メニュー翻訳ボランティア」として飲食店で外国人の方に飲食を楽しんでもらうこと。それによって外国人と日本人のコミュニケーションが深まり、交流が円滑になる。結果として、外国人のもてなしで知的財産が増えるし、観光客のリピーターが増え

る。日本の食文化の提案もでき、デメリットや不安が解消される。

私たち法政大学でもサーキュレイト千代田のグループと協力して活動していく。この活動は年齢を問わず

参加していただき、店側、翻訳者、日本語アドバイザーにより多国籍交流、世代間交流も生まれる。高齢者にとっては、日本の食を再認識する生涯学習の場となり、それを若い人へ伝承することもできる。留学生にとっては、食文化を学び、情報発信の場ともなる。

Q) 活動のメンバーになぜ法政大学の学生名が入っていないのか？

A) うっかりして抜け落ちてしまった。以後、気をつける。

Q) 翻訳ボランティアのニーズはあるのか？ 要望はあるか？

A) 要望はある。いいかげんにできないのでマニュアル作りを進め、「江戸老舗・神田蕎麦乃地図」の英訳に取り組んでいる。

(審査委員の挙手により、万票成立、承認される。)



## 17 犬といっしょにまちづくり まちづくりワン【トライアル】

犬は町のコミュニティづくりに大きな力になる。その力を使って、地域住民の新しい交流の場を作るのが目的。飯田橋の再開発で生まれた、アイガーデンはとてもよい犬の散歩道。その環境を大切にすため、楽しんで通っている私たちも、定期的にクリーン・デイを設けて清掃し、環境美化に協力する。

犬というのは、人と人とのコミュニケーションにも役立つ。ひとりで歩いていたら絶対声をかけないような人や、にこりともしないようなおじさんなどが、「かわいいね」などと話しかける。若い人も声をかけながら通り過ぎたり。飼い主の名前は知らなくても、犬の名前は覚えらる。子どもや若いお母さんとも仲良しになって、近所の人たちと笑顔で接するようになった。

顔見知りが増えるから、犯罪の防止にも役立つし、子どもたちを守るためにも、グループでワンワン・パトロールをして、犯罪の抑止に協力する。

犬という存在には人を癒す力がある。犬といっしょにここを地域住民の交流の場にしたい。新しいマンションの住人とも親しくなれる。将来の展望としては、活動が他の地域にも広がっていくように、ここで何かイベントを開きたい。

Q) 犬はセラピー・ドッグとしてもよいし、それをツールとしてのまちづく

りはおもしろいが、犬の数はどのくらいか？

A) 話に賛同してくれる飼い主は多いが正確な人数はまだ不明。

Q) 申請の予算額でゴミの袋代2万円とは、清掃用のものか？

A) はい。箒や塵取りなども含めての金額になる。

Q) やり方次第では斬新なまちづくりになる。愛犬家の趣味の集まりにならないように。ドッグ・ランのようなワンワン広場を造って、子どもたちとふれあえるようにしてはどうか？

A) 実は、まさにそれがねらい。その準備をしていく。

Q) 都心には色々な事情があるが、その辺を考えて犬の散歩だけでなく、地域でのまちづくり活動にしてください。

(審議会会長より念押し意見。その上で承認される。)

鈴木副会長より、トライアル部門全体に、「来年の一般応募に向けて、他のグループと交流を深めてがんばってください」というコメントをいただく。



# 千代田まちづくりサポートについて

## 目的

「千代田まちづくりサポート」は、千代田を元気ある、住みよい魅力的なまちにしようとする市民レベルでがんばっているまちづくり活動や、これから始めようとするまちづくり活動を応援します。

## 活動例

- ・ 地域のまちづくりへの提案をまとめる活動
- ・ まちづくりに関するワークショップ、シンポジウム等の活動
- ・ まちづくりに関する調査研究
- ・ まちづくりグループのネットワークづくり
- ・ 地域の情報を提供する活動 など



▲発表者の模造紙

## 募集部門

### □トライアル部門（新設）

今年度より新設されました。トライアル部門は、初めて応募するまちづくり活動を対象とした部門です。まちづくり活動に対するやる気を重点に審査し、一律5万円の助成を行います。

### □一般部門

これまでと同様に初めて応募するグループから継続活動グループまでだれでも応募できる部門です。助成回数に応じて、審査のポイントが異なります。

各グループに5～50万円の助成を行います。



▲発表のうちあわせをする参加者

第8回 千代田まちづくりサポート 助成部門 概要		
部門	トライアル部門	一般部門
対象グループ	初めて応募する活動初動期のグループ	初めて応募するグループから継続応募するグループ
助成制限	1年間のみ	3年間まで継続応募可能 (トライアル部門での助成年数はカウントしない)
助成金	1グループ 一律5万円	1グループ 5万円～50万円
審査ポイント	千代田のまちづくり活動に対するやる気	1年目：千代田のまちづくり活動に対するやる気
		2年目：初年度に行った活動の発展性・持続性
		3年目：助成期間終了後の継続性



▲トライアル部門のようす



公開審査会のようす▶

# 総評

(響庭伸会長)

今年は審査委員の方が2人交代され、毎回新しい気持ちでやっていますが、特に今回は新しい気持ちで審査に臨みました。みなさんも毎回違うこと、全く新しいことを考え、新しい仲間とこのまちづくりサポートに応募され、よく活動しているなと思っております。

きょう、このような公開での審査会という形で、助成金の金額まで決定するという審査をしましたが、我々としては、企画書どおりに活動していただくということは、実はあまり重視していません。むしろこれを出発点にして、次々に新しいことを発見する。なおかつ、できるかどうか分からないことをやってみて、失敗もする。そういうことを、これから1年間、あるいはできれば3年間かけて、やっていってほしいのです。

それが、まちづくり活動として実行されれば、中間発表会で発表してもらい、われわれもそれを評価しますし、アドバイスもしますので、来年も継続してやっていただきたい。

きょうは、衆人環視のなかで発表され、審査を受けられて、喜ばれたり、がっかりしたり、疲れてもいらっしゃるでしょうが、これから帰られて、少し頭を冷やし、自分の活動を見つめなおし、こういうことが必要だとか、これからはこうしようとか、そんなことをきっちり組み立てていただきたい。そして、今後の活動に活かして、取り組んでいただければと思います。

先ほど、鈴木先生から、公開審査会はここで互いが会うためにあるのだというお話がありました。つまり、情報公開や新しいグループの育成、人脈・幅を広げてほしいということです。



そこに大事な意味があります。

ただし、逆の言い方をすると、あんまり他のグループと繋がりがすぎないように、自分たちの足で歩いて、自分たちの独自の活動をしてほしい。そうでないと、自分たちのグループの存在価値や意義が、うすらいでしまいます。それなりの緊張をお互いに持って、やっていただきたい、ということです。

毎年、他のグループと共働するグループがいくつかあります。それはそれでいいのですが、あくまで違う組織であるということをお互いに自覚し、お互いの緊張関係をもって、共働していただけないかと思えます。共に支え合うことで、盛り上がっているのに、水を差すようなことは言いたくないのですが、自分たちがやりたいことは、自分たちで何とかするという姿勢も必要です。自分たちでまず考えてやってみたと、他のグループに提案したり、協力を求めたりしたほうがいいでしょう。小さなグループは小さなグループなりに努力していくことが大切ではないかと思えます。

**【審査結果】** 第1回投票：★活動企画内容を支持し、今回のサポート助成が必要と考えられる  
 ◆活動企画内容についてもう少し話を聞き、今回のサポート助成が必要か判断したい  
 ▲社会的に意義ある活動だが、サポート助成の趣旨になじみにくいと考える  
 第2回投票：●今回の助成対象として推薦する

部門	申請回数	団体名	助成申請額(万円)	一次評価	二次評価	助成対象	決定助成額(万円)
一般	3	文化発掘隊	40	★★★★◆◆	●●●●●●	☆	33.7
	3	人が愉しむ道づくり	33.9	★★◆◆◆◆	●●●●●●	☆	28.1
	2	魁!神田塾	50	★★★★★★	●●●●●●	☆	43.4
	2	都心の水辺探訪クラブ	29	◆◆◆◆◆▲	●●	☆	10.2
	2	CAPPS	50	★★★★★★	●●●●●●	☆	50
	2	区有地活用を考える区民の会	14	★★★★◆▲	●●●●●●	☆	12
	2	武蔵野美術大学コミュニケーションデザイン	15	◆◆◆◆◆▲	●●●●●●	☆	11.6
	2	千代田文化会	17.4	★★★★◆◆	●●●●●●	☆	13.3
	2	カンダカメラボ	47.5	★★★★★★	●●●●●●	☆	38.9
	2	でんでんむし	44	★★★★★★	●●●●●●	☆	36.7
	2	フレンドシップ千代田	20	★★★★◆◆	●●●●●●	☆	15.6
	1	内神田家守研究会	50	★★★★◆▲	●●●●●●	☆	35.3
	1	神保町応援隊	39.2	★★★★★★	●●●●●●	☆	39.2
	1	i-Residence構想研究会	50	★★◆◆◆▲	●●●●●●	☆	25
トライアル	1	NPO法人日本の風番町価値創造倶楽部	5	-	●●●●●●	☆	5
	1	サーキュレイト千代田	5	-	●●●●●●	☆	5
	1	まちづくりワン	5	-	●●●●●●	☆	5

## 審査委員の方々



鈴木伸治 副会長      山本 坦 委員      金城敦彦 委員      田熊清徳 委員      服部素子 委員      藤江賢治 委員

## 1 「文化発掘隊」(山本)

千代田区の各地域にある世間遺産を、大人は気が付かない子どもの目線と心で掘み発見→発信してゆく取材活動には私も参加したが、子ども記者たちは各自真剣に取り組んでいる。現場の情報を自分の言葉で表現し取材活動を継続しながら、今までに発信した情報・新聞の成果を編集し、3年目の今年はCD版を作成するという。今後の活動を継続する上で、子どもたちが自身で取得した発見や情報を千代田区のみならず他区・市町村の子ども・大人たちのためにCDを有効に使って子ども記者の輪を千代田区から発信、広げてほしい。

また活字離れの昨今と相まって〇×式の安易な学習方法から考える力、ものを感じる力をつけることは子どもたちに知的好奇心を喚起し、将来へつなげる大きな栄養素の一つとなるだろう。3年目は「最後」でなく将来に向けての活動のスタートですよ！

## 2 「人が愉しむ道の研究」(饗庭)

3年目となる今年はまとまった成果が期待されるとともに、これからの「長期にわたるであろう」まちづくりに向けて、基礎的な体力をつけ、体制を整える最後の年になると思われる。模型の作成に必ずしもこだわらず、今後の活動のためのしっかりした足下固めを期待する。

## 3 「魁！神田塾」(服部)

学校・世代・新旧住民の垣根をこえて、町全体で「神田っ子」を育てる——2つの小学校を中心に、たくさんのプログラムを実施された初年度の活動はどれもすばらしく、そうした活動の自信、エネルギーが伝わってくるプレゼンテーションで、文句なく決定でした。大人のみなさんの元気に「親もまちの担い手としていっしょに成長し、地域の活性化をはかる」という目的が十分達成されていることが実感できました。

せっかくの実績、参加する子どもたちは変わっても、新しいメンバーがどんどん関わって活動が継続するしくみづくりも重要だと思います。また、こうしたとりくみを行なっている他地域と交流してみると、神田の良さを再確認できるかもしれません。企画から実施のノウハウ=『神田モデル』を、区内各地域に、都内、他府県にも活かしてほしいものです。

## 4 「都心の水辺探訪クラブ」(饗庭)

地域に入り込み、溶け込むための意欲も方法もやや弱いように思えた。「よいこと」「面白いこと」をしているから、放っておいても皆が分かってくれるだろう(分からない人がいないはずがない)、という甘い認識が気になった。こういった考えを捨て、ねばり強く、地域に対して押し売りを続けるくらいのつもりで活動を展開していただきたい。

## 5 「CAPPS」(山本)

千代田区の「緑のDNA」を座軸として、公園アダプトシステムを啓発し、加えて歴史・文化も含めて区民・学識経験者・企業・行政の人々を結びつけ協働活動の効力を現場に積み重ねていく「まちづくり活動」として評価します。特に中央区と千代田区の縁にある常盤橋公園再生プロジェクトは、日本橋地域ルネッサンス100年委員会の方々との交流もあり、私も過日清掃に参加しましたが中央区の方々が清掃に汗を流して参加されたことは、都市の公園の必要性と江戸時代奥州街道への御門跡、

明治期からの日本経済発展との深い縁の重要性を再認識し今に活かす活動に基づくものと思われま。また千代田区との連携による「ちよだ花の道マップ」の作成や、本年度の「ちよだパークドクター」の作成などITの活用で千代田区のみならず、どこからでもアクセスできる活動に拡がりそうです。満願の助成金、皆の想いを込めて有効に活用してくださいね！

## 6 「区誘致活用を考える区民の会」(金城)

廃校跡地は単なる一地図上の空白—ではない。むしろ一心とコミュニティの空白—に近い。行政主体で跡地利用を検討されるのを待つ姿勢ではなく、また対立する姿勢でもなく、住民自ら考えようという姿勢に、しんの強い“やる気”を感じる。参加者を掘り起こす努力もされている。労苦の多い活動であることが想像できるが、この自ら考えるプロセスがあることによって、実際の土地利用の価値の高まりが期待できる。

## 7 「武蔵野美術大学コミュニケーションデザイン」(田熊)

1年目のすずらん通りにおけるオリジナルクレヨン製作等の活動は、街への提案としては非常に有意義で斬新なものでありました。2年目の助成は、主要メンバーが先輩から後輩へ引き継がれたとの事ですが、今まで以上の発展性・持続性が求められております。

それだけにこの活動を通じて培われたノウハウ(人、街との繋がり等)を無駄にせず、もっと積極的に街に入り込んでもらいたい。そこにはコミュニケーションデザインの根源になるヒントが絶対にあるはず。実際に神田、そして神保町の街の人々とふれあい学んでください。そこで生まれた魂の入ったデザインのみが人の心を動かし、それが神保町オリジナルのコミュニケーションデザインを創出し発信する事につながります。最後に今回初助成された地元主体の神保町応援隊からの支援をぜひお願いして、さらに活動範囲(アイデア)を広げていかれることを期待しております。

## 8 「千代田文化会」(饗庭)

いつもの「背筋の伸び方」には感服いたしますし、活動には大変に期待しております。一方で、リーダー—人のリーダーシップに頼りすぎているようにも見えますので、グループの中心メンバーづくり、そして新メンバー(特に前期高齢化の方)の巻き込みが期待されます。

## 9 「カンダユメラボ」(田熊)

1年目は神田の街でのイベントは提案型が多数を占めていましたが、活動2年目を迎えてユメパワーアップの兆しが見えます。今までの地道な活動や祭などを通じてできた、神田の街の人々とのコミュニケーションが生かされつつあります。グループは主に建築学科の学生で構成されているだけに、神田の街(町)をよく研究して都市提案・都市実験の場としてうまく活用しています。今年は地元町会や神田で活躍しているグループとの共同イベントを企画中とのこと、まさにカンダのユメがコラボするのでしょうか。生きた都市(神田)でのこのような活動は実習そのものであり、いま企業で一番要求されているコミュニケーション能力の訓練の場でもあります。才能がいくらあってもそれを表現、発信するのはコミュニケーション能力です。街も人も日々変化していきます、せっかくできあがりつつある

訓練の場を、発展的・継続的に残していくには、先輩から後輩へ伝えるのは当然のこととして、それとは別の何かが必要であります。カンダユメラボには夢があり、夢には限りがありません。これからも学生たちの夢をディープな町『神田』で共に体験できるようお祈り申し上げます。

#### 10 「でんでんむし」(金城)

大学生が、自らを地元の一員と自覚して活動していることは、ありそうでなかなかないこと。地元を知ろう／情報発信しよう／招き入れようという取り組みにより、地元の方々との“絆”も着実に強めていっている。昨年のチャレンジ精神溢れる取り組みの成果と課題を踏まえ、本年度の活動プログラムを提示してくれた。学生グループの活動に代替わりは宿命。新陳代謝を考えて、今後も活動を継続してほしい。

#### 11 「フレンドシップ千代田」(藤江)

外国から日本に来た方々にとって、母国とは違う文化、言語でとまどうことが多いのは容易に想像ができる。日本人は、学校で使う世界地図が、日本が真ん中でヨーロッパが左端、ニューヨークが右端というのに何の疑問もなく育ち、世界の人は日本のことをよく知っていると思っている。でも本当は日本のことをほとんど知らないと思っているのでは(もちろん優れて日本人以上に日本の歴史や習慣や国情に詳しい外国人もいます)。

外国で紹介されている日本について想像するに、場所は京都、奈良、鎌倉、浅草、人物は舞子さん、関取、渋谷の若者だとすると、実際の日本に来てとまどうのは当然だと思います。外国の方々は今日本を正確に伝え、日本人のひとりよがりな目を覚ませ世界に通用する国際感覚を身につけさせるには、民間の発想、ノウハウ、人材で、ボランティア精神で取り組んでもらう必要が大いにあると思います。そのためには、案内をするメンバーもまた、日本のことを十分に理解する必要があります。今後のフレンドシップ千代田の取り組みに期待します。

#### 12 「内神田家守研究会」(鈴木)

内容からすると市民参加などの要素の少ないテーマですが、不在地主が多くなり、まちへの愛着が薄れていくなかで、まちをどのようにマネジメントし、神田らしさを維持、再生するかというテーマは、これからのまちづくりを考える上で非常に重要なテーマであると思います。やはり、不動産オーナーの意識を変えることが第一の目標であると思われますが、個別の建物のリニューアルが地区レベルでのまちづくりにつながっていくという大きな目標を忘れずにうまく地区を巻き込みながら活動を行ってほしいと思います。そのためには地区との連携、イベント戦略が重要になってくると思います。期待しています。

#### 13 「神保町応援隊」(服部)

夜間人口4万人、昼間人口100万人以上の千代田区では、一昼間の人口こそが千代田区を応援しなくては…。「おさんぽ神保町」というフリーペーパーを使って応援隊を増やしていこうという取り組み。実際に4月に発行した第1号を見て改めて「神保町っていい町だな」と思いました。ホームページやブログ(<http://www.jin-oen.com/>)も完成をしており、神保町の魅力がどんどん発信されることを期待します。会費は500円(ワン

コイン)ですが、500円以上でもよいのでは? 全国から会員を募るにあたっては、簡便な入金システムが利用できると入会を促進できるのではないかと思います。

なお、審査会の質疑にもありましたように、応援隊メンバーのEメールアドレスを含む会員名簿の取り扱いには、個人情報保護の観点からくれぐれも配慮していただくようお願いいたします。

#### 14 「i-Residence (アイレジデンス) 構想研究会」(鈴木)

審査会では、特定の大学の関係者が多いといった点を指摘するコメントもあったように思いますが、活動の目的、趣旨は非常に重要な視点を含んでいると思います。活動内容としては構想づくりがメインとなりますが、2年目、3年目へ向けて、構想を現実化していくための仕掛けも必要かと思えます。外国人留学生と地域住民が交流する仕掛けづくりなどは他団体、千代田に拠点を置く他の大学との交流なども必要になってくると思います。また、留学生の暮らしをどのようにサポートすべきかといった点については留学生を交えての議論も必要になってくるかと思えます。現在のグループには留学生は含まれていませんが、活動のみならず、組織の広がりにも期待しています。

#### 15 「NPO法人日本の風—一番町価値創造倶楽部」(山本)

地域の資源や見所を発掘・再評価し、これらの結果を基に新たな地域Identityを創造、情報発信していくのが目的のようだが、この倶楽部のHPIによると活動範囲が広く活動目的がつかみにくい。この倶楽部のサロン風な現場に私も立ち寄ったが、展示会・教室・まちづくり・出版・出前講座活動などあれもこれもやりたい気持ちは分かりますが、焦点を定めて活動された方がまとめやすいのではないと思う。また「仲良し倶楽部」的な偏りにならないように、あらゆる人々を対象に「まち」に還元できるような活動へ触先を向けてください。またHPIに「実験販売」とあるが「販売プロモート」のためには助成金は使えません。加えて「まちみらい千代田サポート事業」の活動グループとも連携して日本文化を大切に育ててくださいね。

#### 16 「サーキュレイト千代田」(金城)

外国人支援と地域活性化が結びつく、分かりやすい活動企画だと思う。「なんだか楽しいな」と思わせる、活動に参加・協力する人へのご褒美も考えられている。本年度、トライアル部門を創設した甲斐があったというもの。こうした実践活動を息長くつづけることにより、日本語に不慣れでも千代田は生活しやすいという実体験が、人づてや・口コミで世界に浸透していくのが一番。

#### 17 「まちづくりワン」(鈴木)

犬といっしょにまちづくりというユニークな活動の視点に興味をもちました。当面の活動拠点はアイガーデンが中心となるかもしれませんが、地域的な活動の広がりを目指している点などにも期待しています。そのためにもまちづくりサポートの他の団体とうまく情報交換しながら、どのように運動を広げていくかというアイデアを組み立てていってください。また、活動内容についても、将来は拠点づくりへと活動を広げたいとのコメントもありましたが、まちを犬といっしょに楽しむ方法の提案など、いろいろと広がりがあると思います。今期の活動が来年の応募にうまくつながるように楽しく活動してもらえればと思います。

# 事務局よりお知らせ

## (1) 中間発表会のお知らせ

日程：11月25日（土）13時～

会場：千代田プラットフォームスクウェア5F

注意：模造紙2枚程度で活動の状況を発表していただきます。

詳細は、後日、各グループの担当者に郵送にてご連絡いたします。なお成果発表会は、来年3月を予定しております。

※各グループの活動が、新聞や雑誌などのメディアで紹介された際には、ぜひ事務局までお知らせください。



## (2) 印刷物の製作について

チラシや報告書の作成にあたって、印刷などが必要となった場合、ご協力いただける会社をご紹介します。相談や見積もりだけでも可能ですので、ぜひご利用ください。なお、連絡時には必ず「まちづくりサポートの助成団体」であることを伝えてください。



お問い合わせ：(株)サンワ 担当 渡辺・山内

e-mail : yamauchi@sanwa-s.com

TEL : 03-3265-1816 FAX : 03-3265-1847

〒102-0072 千代田区飯田橋2-11-8

http://www.sanwa-s.com

## (財) まちみらい千代田 賛助会員一覧 (法人:80社 個人:70名 計150)

2006年8月22日現在

※この事業は下記の法人会員と個人会員の会費で運営されています。＜賛助会員募集中＞

### 【法人会員】

#### 【保険関係】

日本興亜損害保険(株)

#### 【金融関係】

大和証券(株)本店営業部

興産信用金庫

城北信用金庫 神田支店

(株)東京都民銀行神田支店

(株)三菱東京UFJ銀行

(株)東日本銀行 飯田橋支店

みずほ信託銀行(株)

(株)りそな銀行

#### 【建築・土木関係】

(株)大林組東京本社

大林道路(株)関東支店

鹿島建設(株)東京建築支店

鹿島道路(株)

(株)熊谷組首都圏支店

五洋建設(株)

清水建設(株)

(株)銭高組東京支社

大末建設(株)

大成建設(株)

(株)竹中工務店

中央建設(株)

鉄建建設(株)

東京舗装工業(株)

常盤工業(株)

戸田建設(株)東京支店

飛鳥建設(株)関東土木支店

(株)ガイアートTK

(株)ナカノフード建設

(株)間組 東京支店

前田建設工業(株)

真柄建設(株)東京本店

(株)増岡組 東京支店

(株)みらい建設グループ

#### 【不動産関係】

エヌティティ都市開発(株)

協永(株)

(株)共立エステート

(株)久保工

住友不動産(株)

大日本企業(株)

三井不動産(株)

三菱地所(株)

安田不動産(株)

#### 【建設設計】

(株)アール・アイ・イー

(株)アイテック計画

(株)ADプロジェクト

(株)エルイー創造研究所

(株)関東設計

(株)楠山設計

(株)都市環境計画研究所

パシフィックコンサルタンツ(株)

(株)日立建設設計

(株)ポリテック・エイディディ

マト設計・コンサル(株)

(株)ラウム計画設計研究所ビル管理

鹿島建物総合管理(株)

東京美化(株)

本州ビル・メインテナンス(株)

#### 【広告代理業】

(有)フィレール

#### 【電機・通信関係】

ウェブリオ(株)

三洋電機(株)

#### 【緑花・環境関係】

日産緑化(株)

#### 【コンサルタント】

(株)アーバントラフィック

エンジニアリング

(株)アフタヌーンソサエティ

(株)エコプラン

(株)新都市企画

NPO都市住宅とまちづくり研究会

(株)都市デザインシステム

NPOマンション管理支援協議会

ランドブレイン(株)

#### 【その他】

秋葉原商店街振興組合

秋葉原中央通商店街振興組合

秋葉原西口商店街振興組合

(株)イサミヤ

神田古書店連盟

(社)東京都建築士事務所協会

千代田支部

東洋美術印刷(株)

フィールファイン(株)

プラットフォームサービス(株)

(株)メガ

ヨシモトポール(株)

#### 【個人会員】(敬称略)

青木 孝次

安孫子 政夫

安藤 岩三郎

伊澤 優

泉澤 定雄

伊東 敏雄

犬伏 真

今川 守

浦田 泉

扇谷 和栄

大熊 伸

角地 登志子

加藤 武夫

北見 拓

木村 進一

小林 勝彦

小山 政士

今野 隆雄

佐々木 明美

佐藤 章子

新濱 信幸

鈴木 勉

鈴木 仁史

須藤 昭雄

瀨川 昌輝

高瀬 拓

高鍋 龍市

立石 一郎

立山 光昭

寺沢 譲

戸田 豊重

中尾 嘉男

二木 憲一

早川 平典

堀部 剛正

松島 弓子

松谷 優子

松波 道廣

三原 久徳

宮寺 孝臣

三輪 瑛子

森田 克弥

山内 秀男

山崎 泰廣

渡邊 和

藤本 琢巳

他24名